

# 学ぶ喜びを実感できる評価

評価の視点の明確化、評価方法の工夫 2年「電流」

恵那市立恵那東中学校 原 誠

## 1 指導の立場

### (1) 主題設定の理由

私は以前から『学習評価』について解決したい課題があった。それは、評価をもっと生徒のために生かしたいということである。私自身、評価が生徒にとってあまりプラスになっていないのではないかと疑問を感じるがあった。それは、私が行なっている評価は、ほとんどが単位時間の最終的な評価であり、生徒自身がその評価を受けて、自分を高めていくのは難しいのではないかということである。評価をもっと生徒自身が自分を振り返り、改善していく材料にして、生徒がやる気や喜びを持って学習に取り組むように活用できないかと考えた。そこで、評価の視点、評価方法を見直し、生徒が学習にやる気や喜びを持って取り組めるように、本研究主題を設定した。

### (2) 研究仮説

単位時間の評価の視点を明確にし、単位時間内に一人ひとり評価して、ねらいが達成できていない生徒に手立てをうてば、生徒の理解が深まり、学ぶ喜びを実感させることができる。

### (3) 研究内容

#### 評価の視点の明確化

生徒が「分かった!」「できた!」と言って、喜びを感じるためには、できたか、できなかったかを明確にする必要がある。そのためにきちんとした単元指導計画を立てる必要があると考えた。

今回作成するものは、次の6つを含んだものである。

本時のねらい	本時の課題	評価規準
評価方法	評価場面	手立て

特に大切にしたいのは、 、 、 、 である。

評価を明確にするためには、明確な評価規準が必

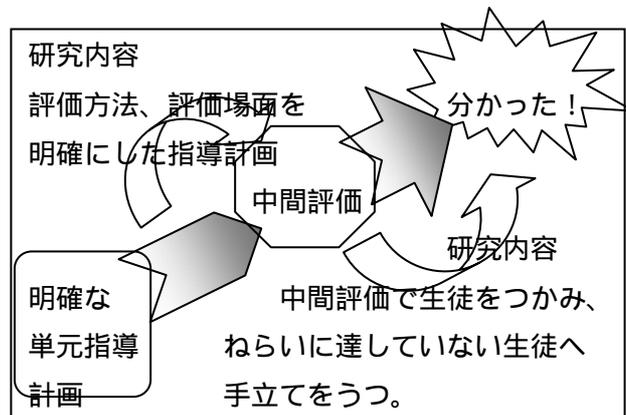
要である。そこで、 の評価規準を細かく設定する。また、評価規準だけがあっても、多くの生徒をきちんと評価することはできない。そこで、いつ、どのように評価するのかも明確にするために の評価方法、 の評価場面も明確にする。そして、ねらいに達していない生徒へアドバイスをするために、 の手立ても明確にする。

#### 評価方法の工夫

生徒が評価によって喜びを持ち、さらに学習しようとする意欲を高めるためには、授業の最後の評価だけでは不十分である。それは、その評価では、生徒が分からなかった所や理解できなかった所を直すチャンスがないからである。教師が生徒を評価し、「なぜできていないのか、どうするとできるようになるのか」をアドバイスすることで、生徒の理解が深まり、「できた!」「分かった!」という喜びを実感できると考えた。

そこで、1時間の授業の途中で評価(この評価を中間評価と呼ぶことにする)をし、生徒の実態を把握して、ねらいに達しなかった生徒には、残りの時間でねらいに達するように手立てをうつようにする。そうすることで生徒の理解が深まり、学ぶ喜びを実感できると考えた。

### (4) 研究構想図



## 2 実践

### (1) 評価の視点の明確化 単元指導計画の作成

単元指導計画の一部(1単位時間の内容)

ねらい	課題	評価規準	観点	評価方法	評価場面	手立て
直列・並列につないだ豆電球を1個はずした時の電流の道すじについて説明できる。	回路によってどのような違いがあるのだろうか?	直列回路では豆電球を1個はずすと回路がなくなりつかなくなるが、並列回路だと1個はずしてもまだ回路があるので豆電球がつくことが説明できる。	思考	ノート(直列回路では豆電球を1個はずすと回路がなくなりつかなくなるが、並列回路だと1個はずしてもまだ回路があるので豆電球がつくことが書いてある)	実験終了後の机間指導(考察を書くとき)	前時の授業内容の回路ができると豆電球がつくことを思い出させる。

### (2) 評価方法の工夫

評価方法の工夫の実践を単元『電流』の第5時間目の授業で紹介する。

**ねらい**  
直列・並列につないだ豆電球を1個はずした時の電流の道すじについて説明できる。(思考)

**課題**  
回路によってどのような違いがあるのだろうか?

本時のねらいは「直列・並列回路における電流の道すじを説明すること」である。そのため上記の課題を設定し、下記の実験を行なわせた。

**実験**



豆電球2つと乾電池1つの直列回路と並列回路を比べる。

豆電球の明るさは?  
豆電球を一つソケットからははずすと、もう一つの豆電球はどうなるか?

以上の二つについて実験させ、結果を確認させた。結果は下記の通りである。

**結果**

豆電球の明るさは?  
直列回路：暗い  
並列回路：明るい  
豆電球を一つソケットからははずすと、もう一つの豆電球はどうなるか?  
直列回路：消えた  
並列回路：そのまま光っていた

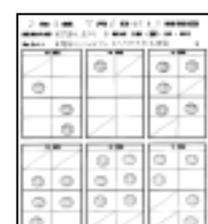
実験結果を全体交流で確認し、「直列回路の豆電球は消えて、並列回路の豆電球はそのまま光っている理由」を考察するように指示した。( \*電球の明るさについては、今の段階では難しいので、今後の授業の中で考えていくと伝えた。)

**中間評価**

「直列回路では豆電球を1個はずすと回路がなくなりつかなくなるが、並列回路だと1個はずしてもまだ回路があるので豆電球がつく」ことがノートに書いてあるかを確認する。

考察を書いているときに机間指導をし、上記の内容がノートに書いてあるかをみた。書いてある生徒には合格のハンコを押し、教師が持っている名簿にもハンコを押し合格者を把握した。

**合格者チェック名簿**



合格者数  
25人(37人中)  
ハンコは合格  
空白は未合格  
斜線は空席

未合格の生徒は12人いて、その生徒には次の手立てをうった。

**手立て**

前時の授業で、『+極から-極まで1つの道すじ(回路)ができると電流が流れて豆電球の明かりがつく』ことをやっているの、そのことを思い出させるために、「どういう状態になったら豆電球の明かりはつくのだった?」直列回路と並列回路から豆電球を取るとどういう状態になる?」と問いかけた。

以上のような手立てをうった結果、最初に考察が書けなかった生徒の一人A子は、次のようにノートに記述をし、理解することができた。

**考察**  
 Aは、1つの回路が閉いもんで、1は本を電気が通る。イは、回路が閉いもんで、1は本を電気が通る。アは、回路が閉いもんで、1は本を電気が通る。

また、数日後、この授業の内容を含んだ確認テストを行なった結果、A子は次のようにきちんと正解することができた。

**確認テスト**

この問題の正解者数 30人(37人中)

このテストは夏休みをはさんで行なったものである。長期間、時間が経っているにもかかわらず、30人の生徒がこの問題に正解することができた。中間評価では25人の生徒が合格だったので、合格者を増やすことができ、多くの生徒をねらいに到達させることができた。

### 3 成果と課題

本単元終了後に生徒にアンケートをとった。

授業の中で、ハンコを押して合格かどうかをチェックしますが、その方法は良いと思いますか？5段階で評価して下さい。(5が一番良い)

5	4	3	2	1
17人	12人	6人	2人	0人

#### (1) 成果

クラスの8割近い生徒が、中間評価が良いと答えた。その理由として次のような内容であった。

**中間評価の良い所**

- ・分からない時に個人的にヒントをもらえるからよく分かるからうれしい。 … 9人
- ・自分の考えに自信が持てる。 … 8人

・合格するためにやる気もてる。 … 8人  
 実践の結果と生徒のアンケートから次のような成果があげられる。

中間評価をし、合格できなかった生徒に手立てをうつことによって、多くの生徒がねらいに到達し、分かる喜びを感じることができた。教師が机列表を持って机間指導し、合格者にハンコを押すことによって、素早く評価をすることができ、全員の様子を把握することができた。その時に、生徒一人ひとりと話すことで、生徒自身に自分の考えに自信を持たせることができるようになった。生徒のノートに合格のハンコを押すことによって、生徒の意欲を高めることができた。単元指導計画に評価規準、評価方法、評価場面、手立てを入れることによって、評価が明確になって、素早く、きちんとした評価ができ、生徒に的確なアドバイスがしやすくなった。それによって生徒の理解を深めることができるようになった。

#### (2) 課題

アンケートに良くないと答えた生徒の理由は次のような内容であった。

**中間評価の良くない所**

- ・時間が無いのであまり書けない。 … 5人
- ・合格できないとやる気がなくなる。 … 2人

課題として、次のようなことがあげられる。全員を評価していると時間がなくなってしまい、中間評価だけで終わってしまう場合があったので、時間をどのように生み出すかを考えていきたい。合格できなかった生徒への手立てが不十分で、何人かの生徒をねらいに到達させることができなかった。今後は生徒への手立てを増やし、様々な生徒に対応できるようにしていきたい。今回の評価規準はいわゆる『B』の評価である。『A』についてはそれ以上になるのだが、そのレベルまで引き上げるための手立ても考えていきたい。